



「和」川柳社会報 六八五

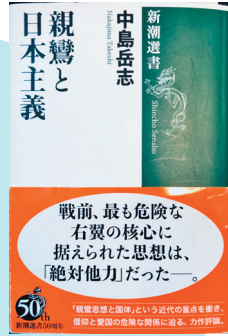
定例会 二〇一九年一〇月二四日(木)

皆んなで選んだ  
今月の秀句

郷土の「偉人」  
暁烏敏の戦争責任

教科書のアジアの視点黒く塗り  
憲法を変えたい以外全部嘘  
自眞弓  
寺内徹乗

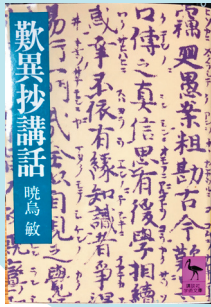
戦時中、宗教界では天皇神と阿弥陀仏の矛盾、戦争への協力が大問題だった。親鸞と教団の歴史を正面から提起した中島岳志の著作からひもとく暁烏敏と戦争。



戦前、最も危険な右翼の核心に据えられた思想は、「絶対他力」だった。

「権威主義と戦争」という近代の原点を暴く、権威と暴力の危険な関係に迫る、力作野郎。

「歎異抄語録」  
暁烏敏が全国で行った講話をまとめた



封印されていた親鸞の「歎異抄」を世に紹介した第一人者、清沢満之の「語録」。

過去の歴史は未来への道標。血塗られた歴史を学ばぬ輩がひな壇に並び、改憲へ「偽装、捏造、ウソ」で固める。それを知っても過去を学ばぬ国民の多いのもまた現実。(周)

例会案内

11月例会 11月28日(木)  
投稿締切 25日(月)  
課題「代」 3句以内  
自由吟 5句以内  
自選句、自解筆もよろしく。

◆ 目次

川柳互選	2
課題吟「視」	2
自由吟	3
自選句・ほのほの川柳	5
おたより	5
鶴彬の眼と心を持って	8
鶴彬川柳大賞選後感	8
プロレタリア文学運動の盲点⑫	9
「親鸞と日本主義」を読む	9
シベリア抑留の記録⑬	12
故・秋山茂氏の手記	12
編集後記を兼ねて	16

# 10月の 川柳互選

## ◆課題吟「視」

(互選) 一人3句以内吐

4	安倍さんに映らぬ水泥 絶望	ダン吉	9	まともなら富裕税へと視点向く	林
4	凝視するどちらを向いて政治する	馬頭琴	9	被災地凶友の住む地を注視する	白眞弓
4	即位の礼テレビを視聴で災害忘れ	高坊	9	大洪水視界に入らぬ幹事長	徹乗
4	無視だつて手酷い苛めなんだろう	ダン吉	8	民意から視線そらして九条壊し	大峰
3	視界不良にこつた眼だよ晋三さん	未知子	8	野次言えぬ 社会へじわり 監視の目	広助
3	敵視から距離を置いたらどうだろう	ダン吉	8	徴兵も視野に入れてる改憲魔	林
2	人寄れば監視 警備部公安課	立東爺	8	貧者の苦無視を決め込む安倍苛政	林
2	反核の灯が視界から消えていく	亀公子	7	何をみた静かに光る監視の目	立東爺
1	視野広げ 右も左も手をとる憂う	高坊	7	防犯カメラ五万と写す自由主義	大峰
1	まずまずは視察の前はオットット	白眞弓	6	中東へ「わが軍」巡視 傘のもと	宏
1	アベ殿は視野狭窄か広角か	未知子	6	視界ゼロ日本海は波高し	亀公子
1	横流し監視情報手を握り	馬頭琴	6	こんな人たちを敵視続けてはや六年	徹乗
	台風被害状況視察に分刻み	高坊	5	アベ政府 隣国敵視 マスコミも	宏
			5	国民に目隠しをしてもどる戦前	亀公子
			5	リニア線騒音・水枯れ等閑視	馬頭琴
			5	一強が 核・拉致抱え 視界ゼロ	広助
			5	権力に 酔うて改憲 近視眼	広助

9 視野広げアベ政権の監視です 北の山  
 10 街角の風景になっていく監視網 立東爺  
 10 もの言えぬ監視国家へ歩を進め 徹乗  
 11 グレタの視点目覚めよ大人恥を知れ 未知子  
 13 教科書のアジアの視点黒く塗り 白眞弓

◆自由吟 (互選)

一人5句以内吐

駅前で高校生とシール張り 一角  
 1 FTAウインウインどころかうえんうえん 高坊  
 1 キャツシユレスプレミアムなど縁がなし 北の山  
 1 泥と水これからのこと聞かれても ダン吉  
 1 トランプの戯言友好国と戦さす 大峰  
 2 国会は 無法地帯「軍」中東へ 宏  
 2 トリエンナール テロけしかけ補助金取り上げる 大峰  
 2 辺野古石垣 臣意が通る民意より 未知子  
 2 晋三に付度議長恥をかく 大峰

2 原発に罪はおまへん止めません ダン吉  
 2 司令官AI兵器の思うまま 馬頭琴  
 3 遺骨収集敵も味方もあるものか 亀公子  
 3 洋服になつてはいるが返したい ダン吉  
 3 現人を返上しても人権は 白眞弓  
 3 台風を「まずまず」と本音 二階氏よ 宏  
 3 官邸は 三権握り 摂政をも 宏  
 3 もの言えば口唇寒しやまとんちゅ 未知子  
 3 大臣の数だけ九条が踏み絵 ダン吉  
 3 温暖化取り組みますよセクシーに 未知子  
 4 ツイッター千葉の被害よりラガーシャツ 馬頭琴  
 4 原発は国策ですよと三億二千万 大峰  
 4 政権の国壊し策に乗る台風 林  
 4 君が代を 歌うと暗く なるのです 広助  
 4 軍神の弟子が吐くのは嘘ばかり 林  
 4 肉・小麦譲歩してWINとは 馬頭琴  
 4 この時代不条理超える 貧富の差 広助

4	オリンピック元に戻らぬ汚染水	立東爺	7	菓子折によだれを垂らし次のアメ	馬頭琴
4	殴られた人はしっかり覚えてる	ダン吉	7	やってきた天皇教ですべて聞	立東爺
4	侵略と差別の即位覚悟せよ	白眞弓	7	大阪湾トリチウムで満たします	馬頭琴
4	平和主義 核の妄想 傘の下	広助	7	即位の礼 隷属者には無縁の儀	亀公子
5	レジ前にカード捜しの列が出来	立東爺	7	この国は 憲法無視で 恩赦とは	宏
5	嵐去るすべての宝瓦礫にし	白眞弓	8	グレタの叫び大人は具になりました	未知子
5	暁烏お前もかと草葉の骨	白眞弓	8	クシー大臣にグレタの涙届かない	徹乗
5	泥の海列島だんだん沈み出し	大峰	8	和の祭典突如あらわる旭日旗	徹乗
5	知らぬ間に洗脳されてる支持者たち	徹乗	8	改憲で 次は鉄砲 担ぐ番	広助
5	戦闘機そんなものより災害支援	高坊	8	消費税更に太らす大富豪	北の山
5	キャッシュレス私の財布がキャッシュレス	北の山	8	おぞましい原発マネーにたかる蛆虫	亀公子
6	本音では左翼に補助金出したくない	徹乗	8	治山治水せせら嗤っている気候	亀公子
6	保育料無償をエサに消費税	北の山	9	猿ぐつわ嵌めて急かせる改憲論	亀公子
6	本番に役立たないけど治水ダム	立東爺	9	付度をせずに広がる決壊水	白眞弓
6	実るほど頭を上げるえらい人	未知子	10	避難者に毛布一枚寒い国	林
6	駆け込み買いますらもできない私です	北の山	10	マスコミも 神話で天皇 奉る	宏
8	問題を隠すに「天災」いい言葉	立東爺	10	少女像見せてはだめと不自由展	広助

12 消費税上げていじめの範示す

12 中東に平和主義を棄てに行く

13 憲法を変えたい以外全部嘘

林 林

徹乘

### 自選句・連作

#### ◆自選句 前田大峰

晋三の花宴税で予算立ち上がる

総理からやつてのける血税の無駄遣い

### ほのぼの川柳

台風が日本縦断大変だ

かまきりに餌をやるうと蝶を捕る

ゲボを吐きすつきりしたがシート没

クツチャネさん今日も元気でコックリさん

夫育て 一に愛情 二に愛情

病名が付けられほっと一安心

神田 鯛

神田 鯛

神田 鯛

おにどん

おにどん

ひろ

### おたより

#### ◆岩佐ダン吉さんより（大阪）

府下40社はあろう各地川柳社の秋の文化(芸術)祭参加の市民川柳大会もほぼ山場を越えた。あかつき友好関係にある岸和田は69回。周辺で各種団体や町会での5つの「川柳教室」からは二人が参加予定。「二五〇人もの大会と聞いているが全ボツ覚悟で行く」と勇ましい話。会報の記事はしっかり読んでいます。ありがとうございます。

#### ◆白眞弓さんより（東京）

具台の悪いのは、PCです。いま鋭意選句中！で、苦悩中。

一句一句、勉強しながら、選んでいます。

例えば、「なぜこの言葉を選んだか」「この表現だのなぜか」「違う言葉で置き換えられないか」

など。でもそうしていると、父が子どもと将棋をしている時に「下手な考え、休むに似たり」と、揶揄していたことを(まったくその通りなのか)か) 思い出して、適当にしようと、やめますが。

### ◆ 浜本さんより (神奈川)

(会報683号に同封した小冊子について)

「金沢人はなぜはつきりものをいわないか」、なるほどとおもいました。一向一揆と前田の分析は、たいへん勉強になりました。そうなのかと合点しました。それがその後の加賀の人間の生き方に大きく影響していることに私は考えも及びませんでした。

百万石祭の大名行列の前にぼろを着た百姓姿が乱れ歩いたことや、「恨み石」のことは初耳です。(略) 大野の夏祭りには奴行列があつて、百万石祭にも出ていると聞きましたが、私は見たこと

がありません。私はただただ一向一揆の「百姓の持ちたる国」に誇りを持つてきました。

渡辺さんの「行けたら、行くわ」を読んで、子どもの頃よく耳にしたセリフで、ふと、おかしくなりました。でも私の妻もよく言うセリフです。

(中略) 加賀の国に限らず日本全土に広がる古くからある民俗性(因習)なのかも知れません。それから「物言わぬ」伝統の反面、百姓の持ちたる国の革新的な伝統は今日の石川・加賀の人間の伝統にもなっていると思つてきました。私はその面の伝統を引き継いだ加賀の出の人間だと思つてます。

戦後初期の国政選挙では、梨木作次郎や京都では谷口善太郎(能美郡)など、戦後新生日本をつくりだした革新議員を送り出しています。岡良一も社会党市長ではなかったでしょうか。

(中略) なによりも内灘の反基地闘争は今日の



反基地の先魁です。加賀の人間に限らず、体制順応主義、長いものにまかれろといった、いわゆる事大主義は、結局は個の自覚の欠如から来ると思っています。(中略)

川柳の精神はそうした社会の民俗性との闘い、抵抗、批判精神だと思っています。同時に、批判・抵抗だけではなく、そうした封建制ともいえる民俗性を克服して、どうしたら一人ひとり個人が自らが判断ができ、自らの価値観をつくりだすか、そしてそれを表現し、行動に移すか、そうした創造的精神が必要だと思っています。思いつくまま勝手な感想を書き述べました。

◆馬頭琴さんより (名古屋)

石川県川柳文化祭での秀句賞、おめでとうございます。国内情勢だけでなく、国外の環境問題他にも目を向け、常にアンテナをはり、情報収集・

分析を川柳の表現に生かしてみえることを感じました。

特に「呻く音」の表現が素晴らしく、情景が目に浮かびいつまでも頭から離れません。

名古屋にもその「呻き」を感じることが求められていると諭されているような気がします。「呻き」がなくなるよう、政治家は勿論のこと、NPO・市民団体・個人が、これからも生き続ける地球について真剣に考える必要がありますね。

その観点から、社会に対して警鐘を打ち鳴らす意味を込めての秀句だと私は勝手に解釈しています。これは、川柳界の環境大賞ですね。普段あまりビールをのまないですが、今夜はこの句に乾杯。

お褒めの言葉、ありがとうございます。

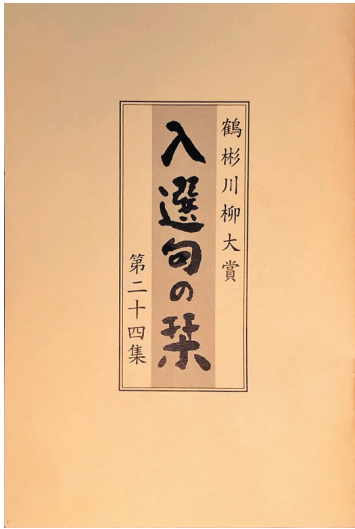
|| 立東爺

鶴彬川柳大賞選後感

鶴彬の眼と心を持って

かほく市川柳協会幹事 遠田亀公子

鶴彬が川柳と向きあい、獄死するまでの短い人生の中で何を直視していたのだろうか。それを探るには彼の作品だけでなく評論も一つの手がかりになる。評論の中で彼が強調しているのは「川柳を文学芸術にまで高めよ



う」ということと「川柳は労働者の闘う武器だ」と言っている点であろう。彼の生きた時代は社会矛盾が激化し、かつ日本が軍国主義化して行った時代である。彼の眼と心がそこをしっかりと直視しているのに気づく。

令和に入って世界も社会も目まぐるしく動いている。中でも「愛知ビエンナーレ」の展示中止は政治の力で強行された表現の自由への大きな危機だと思う。経緯を見ていると鶴彬の時代に重なる不安が湧き上がって来るのは、私一人だけだろうか。

これからも「鶴彬川柳大賞」をしっかりと守って行きたい。時代がどう変わろうと。

選者吟

丸洗いしたい血糊のつく地球

亀公子



プロレタリア文学運動の盲点 ⑫

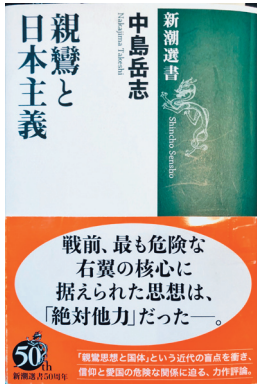
「親鸞と日本主義」を読む

周 立東爺

Nさんといわれる方から電話があった。

先月の会報 (No.684) に「仏教界からの批判」で紹介した文章について、「これは私が十年ほど前に書いたものでビックリしている。どこから見つけたのか？」という問い合わせの電話でした。

金沢の人で面識はなかったのですが、音楽関係で著名なお店の店主・Nさんでした。早速お会いして、小生の考えなどをお話しました。Nさんも川柳を詠み、鶴彬川柳大賞などにも応募しておられた。「鶴彬を顕彰する会」が応募者全員に選考結果を送付した「しおり栞」



2017年8月発行

に同封された「和」の会報を読まれたからでした。

改めてNさんの文章を探してみた。確かに載っていた。2006年5月5日に書かれていた。後日Nさんの同意を得て、全文を紹介したいと思う。

さて、大きなテーマなので、引き続き暁烏敏の戦争責任についての続きになります。

前号の暁烏敏の話は、何人もの方から感想が寄せられました。

「初めて暁烏敏の戦争責任を知った」

「暁烏敏はなにも反省していない」

「暁烏の弟子が可哀想」……などなど。

また、仏教関係者から次のようなご指摘をいただいた。

「暁烏の弟子・児玉暁洋と紹介しているが、この人は大変な人で暁烏敏の戦争責任を背負って、仏教界の中で平和活動の中心になって来られた」と。

児玉暁洋氏をネット検索で調べてみると、《宗教者九条の和》呼びかけ人》とあり、全国で講演などをされ、昨年逝去されていた。まさしく師の戦争責任を背負って活動しておられた。暁烏敏五〇回忌には「願生浄土と戦争責任——暁烏敏の戦争責任と聖徳太子の再発見」という記念講演を行っていて、師匠の戦時中の発言を詳細に紹介していた。講演の中から師匠への批判と尊敬する感情の入り交じった苦悩を感じることが出来る。（講演の全文がネットで紹介されている。）

児玉暁洋氏のこの講演でおそらくはじめて暁烏敏の戦争責任問題が広く知られたのではないかと思われる。しかし肝心のご当地・石川県では「郷土の偉人」とされ戦争責任など誰も語らないから誰も知らない。知識人を戦争に送り出した西田幾多郎と同様である。

電話をいただいたNさんの言葉どおり、「暁烏

を中心とした近代教学の輩がやってきたことは、天皇制を擁護し日本の民族主義、国家主義、国家神道の支配の下に浄土真宗を取り込むことにほかならず、親鸞様の『神祇不拜、国王不礼』の思想の対極にあるものだからです。」

戦後、暁烏自身が反省をしているのであれば許せるかもしれないが、調べるかぎりそうした形跡はまったくない。仏教関係者に尋ねても同様であった。（ただし、敗戦後に真宗大谷派が抱えた財政危機を暁烏敏が建て直したことを評価しておられた。）暁烏敏や当時の教団幹部が一斉に戦争へのめり込み、信徒を戦争に駆り立てたものはなんであったのか？

### 「親鸞と日本主義」

これを考えるきっかけは憲法学者・中島岳志の最近の著書だった。「親鸞と日本主義」（新潮選書）。

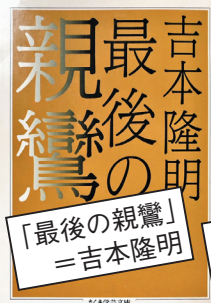
著書の冒頭、中島は「私は、親鸞の思想を人生の指針に据えている。」として、迷いが生じると「教行信証」や「歎異抄」を繙く、と書きはじめると、

中島は親鸞の教義の中に戦時中の真宗大谷派の過ちについて「戦前、最も危険な右翼の核心に据えられた思想は、「絶対他力」だった。」と言う。

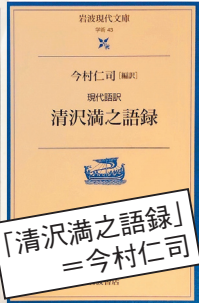


「阿弥陀仏の国か、天皇の国か」=竹中智秀

若い住職達が東別院で教科書にしていた仏教専門書。仏教用語がいっぱい。友人の住職さんから薦められた。「私が辞典代わりになりますよ」と言われた(^\_^)v



「最後の親鸞」=吉本隆明



「清沢満之語録」=今村仁司



「歎異抄を読む」=早島鏡正

後半の章で、1941年、京都・東本願寺で開かれた「真宗教学懇談会」の記録を詳細に検討している。真宗大谷派の重鎮が集まった。2月13日〜15日の三日間開かれた。

テーマの中心は「神祇観Ⅱ『天皇』と『阿弥陀如来』との関係をどう位置付けるか」だった。記録を見ると、会議をリードした暁鳥の姿が浮き出てくる。「暁鳥は、自分の言葉に感極まったのであろう、涙を流して軍部と時局への協力を訴えた。」(242頁)。——この「教学懇談会資料」の内容はネットでもかなり知ることができる。

なお、稿をまとめるため、文献も収集した。「阿弥陀仏の国か、天皇の国か」(竹中智秀)、「清沢満之語録」(今村仁司)、「歎異抄入門」(本田顕彰)、「最後の親鸞」(吉本隆明)、「歎異抄を読む」(早島鏡正)等々。——(続く)

## シベリア抑留の記録

13

「在ソ三年 生と死のドラマ」

故・秋山茂氏の遺稿より

在ソ三年。いよいよ帰国する事になった。シベリヤにも四季はある。春夏秋が短く冬が長い。冬季、氷点下五十度に下がったことも三、四回はあった。シベリヤの春は一度にやって来る。秋も春と同様極端に短い。夏季、昼が長くて夜が短く、午前三時前後にはもう夜が明けはじめ、長い一日の労働が始まる。こうしての在ソ3年。思いは尽きない。

## 日本人の死は明らかに人為的なもの

ソ連軍の陸軍少将（ゲネラル・マイヨール）に給与に対する暴状を訴へた処、中隊長以下全員警備兵は交代をさせられ捕虜の給与は大分良くなり喜んでいたので、間もなく武内は理由もいわれ

ずソ連兵により三日間地下の倉庫（営倉）に監禁される身となった。深夜ソ連兵の眼を盗んで地下の倉庫を訪ねたわれわれ三人に「正義の為には毫も屈するものではない」と胸を張って見せた武内も、空腹を我慢して僅か乍ら全員が出し合ったパンのかけらの山を眺め、流石に歯を噛んで涙を流して喜んだ思い出は、今なお鮮明に脳裏に生きている。

この定量がそのまま捕虜に支給されていたら、栄養失調のため異国に斃れた日本人はもつともつと少なくて済んだであろうし、シベリヤ抑留日本人の死は明らかに人為的なものであると云い得る。

## 3 ソ連人

ソ連人は一般的に欧米人に比較して粗野で割合単純であるが猜疑心は強く、人種や地域により文化教育や生活水準に大きな格差がある。これは第

二次世界大戦前までの永い鎖国主義をとり、暗黒政治がもたらしたもので、大戦によりドイツをはじめヨーロッパ諸国や満州などに侵攻したソ連軍将兵は其処に自国より遙かに優れた文化や近代科学による人間生活をはじめて目撃体験し一驚したのであり、終戦時奉天に侵攻して来たソ連軍先発兵が、水道のコックをひねった途端<sup>ほとぼし</sup>迸る水勢に吃驚し拳銃を発射したということを知り、その後には於いても彼等は時計と万年筆を殊の外欲しがり、両腕にこれ見よがしに数個の腕時計をした兵隊を見たこともある。然しソ連人は野性味が強いだけに『困苦に耐える』という点では世界最強ではなからうか？ 例えば厳寒の最中、氷点下三十度もある時、ソ連兵は黒パンと僅かな岩塩と油馬鈴薯だけで二、三週間位の行軍野営は平気でやってのける。この点は日本人は勿論他民族の追随は許さない。

一口にソ連人と云っても複合民族国家であり、雑多な民族の寄合世帯がソ連邦である。殊に帝政ロシア時代イルクツク市は流刑の地であつたと云われるように血族結婚乃至は近親結婚の関係がスラブ系女性には美人が多いけれども町全体として見た場合、スラブ系のソ連人は少なくなってしまう。試みにイルクツク市内を歩いて見れば植民地の町のようにいろいろな人種を見ることが出来るが、主なものはスラブ系、蒙古系、中国系に一部ウクライナ、コーカサス、キルギス人などで、稀に「日本人の嫁では？」と振り向いてみる時もあるが、多くの場合蒙古系のソ連人であり、それでいて各人種の対立抗争など少なくとも表面的には殆んど無いが、矢張り兵隊間ではスラブ系のソ連人が多少優越感を持っているようである。然し日本人の捕虜に対してはスラブ系より寧ろ蒙古系、朝鮮系、中国系といった東洋系の人種が冷酷



であつたように思われた。

私が在ソ中は第二次世界大戦後に、日が浅く主食のパンは勿論、衣料品も配給で軍隊に於いても大尉以下は黒パン、少佐（マイヨール）以上は白パンと定められていた。然し市のおおむね中央にある公設市場（バザール）には食料品、衣類などは勿論諸物資が非常に豊富で誰でも自由に買われたので非常に賑わっていたが、値段は驚く程高く、なかにはソ連軍が満州から持ち帰った日本人男性の紋付きや女性の裾模様の着物なども並べられていた。

体力的にソ連人は腕力は強いが足腰は弱いようで、自転車に乗れない兵隊はいるが、乗馬の出来ない者はいない。又、国民教育には大きな差がある。即ち優秀な者は国の費用で最高学府に学ぶことが出来るが一般は小学校程度で、この国では学

問より個々の労働力が高く評価されている。ゆえに下層労働者の中には新聞すら読めない者が見られたが、彼等でも日本に関しては「東条」と「天皇」だけは知っていた。或る時「天皇は太っているだろう」と聞くので、「何故か？」というところ「だって日本の天皇は美味しいものを食べて遊んでいる人だから」という答えであつた。

ソ連軍将校の中には数学的知能が日本の中学一、二年位と思われる者は可成り多く、四列横隊の大隊の点呼に真冬の屋外で一時間近くも立たされるのには閉口したが、これは掛け算の九九を知らない為であつたようである。私が第二イルクツクの軍用倉庫で作業したある日、一日中倉庫内で仕事をしたことがあつた。作業はソ連軍が独逸から持つて来た占領物資のボール函入りの煙草が沢山あり、これを種類別にして、倉庫内の一隅より積み重ねて総数量を算出するという簡単な



ものであったが、縦が十五段、横が三十五列計五百二十五の山を八個作ったから、総数四千二百個ということが理解されず、困り果てた。三、四個積んで説明すれば一応納得したようにうなずくのだが、 $15 \times 35$ という計算がどうしても理解できないソ軍の中尉には苦笑せざるを得なかった。

ソ連人は個人と組織人を判然と区別する。だから個人的には親しく割合打ち解けた仲であっても、一旦組織の人となった場合は別人のような冷酷な面を現わすということは職務に対する忠実さでもある。

だから、列車の機関士が女性で機関助手が男性といった場合も普通とされ、われわれが入ソした一九四五年から四六年の冬、アンガラ河上流で結氷した河中から大きな流木をロープで岸に引き揚げる作業をした時の現場監督は、われわれが「女国定」とあだ名を付けたなかなか勝ち気なソ連女

性で彼女の一言にはソ連兵は勿論中隊長でも反駁出来なかった。こうした性別を超えた組織化のため婦人の職域は日本などより遙かに広いようである。

昭和二十二年、三年（一九四七年——一九四八年）頃といえば第二次世界大戦直後のせいにか、ソ連人は衣服など派手だとか地味などと云った観念が非常に薄いように見えた。殊に労働者階層の婦人は黒いズック製の長靴（冬季はフェルト製で男女の区別のない長靴（ワレンキー）に黒木綿製のアノラック姿というのが普通で、このアノラックも男女共通だが女は必ず頭髮をネツカチーフで覆うが中にはテーブルクロスで代用する場合もあった。

（次回に続く）

## 編集後記を兼ねて

◆今年、ベルリンの壁崩壊から30年（1989年11月9日）。もう30年も経つんだ。中年以下の方には実感が無いでしょうが、直接・間接に重く感じておられる方も多いのではと推察。◆大事件が起きました。沖縄首里城の火災。素人目にもスプリンクラーが付けていなかった不思議。沖縄応援団の一人としてこれからの復旧を見守り、出来る応援をしたいと思う。応援心につけ込んで詐欺が横

## 11月例会のご案内（毎月第4木曜です。）

- ◆例会 11月28日（木） ◆投稿×切：25日（月）
- ◆課題 「代」 3句以内 ◆自由吟：5句以内
- ◆自選吟、連作、エッセイ、川柳論、ご意見などもお願いします。川柳に関する資料などもご紹介下さい。
- ◆句報を持参下さい。例会で話し合います。
- 投稿 FAX(076) 254-0762
- メールアドレスは下段に。

郵送は  
下段住所へ。

行しているようです。ご注意を。◆「和」の選考方式についていろいろ提案もされてます。互選方式にするとき、「選者が分かっていると選者に合わせて句を作るから互選にしよう」と決め、全員が「民主的がいい」と出発しました。よりよい選考方式など例会で相談しながら進めていきましょう。◆暁鳥敏の戦争責任の問題。知れば知るほど無責任な暁鳥の姿が見えてきます。西田幾多郎と知識人、宗教教団と信徒など、キナ臭い今だからこそ歴史を押さえない。（周）

「和川柳社」会報  
会員募集しています！

同人：4000円/年  
投句/購読：2000円/年  
★会報の他に、関連資料などもお送りします。

和川柳社 〒920-0335 金沢市金石東2丁目15-30（渡辺 寛）

電話 FAX：076-254-0762 PC-mail：kananabe@popolo.org

携帯：090-9445-1302 携帯 mail：kan-wata@i.softbank.jp

振込先：北國銀行中央市場支店 #191 普通 640 「和川柳社」